

# カンボジアにおける人材育成にご協力下さい。

アンコール・ワットでカンボジア人保存官・石工を養成しています。



上智大学アジア文化研究所は、1980年代初頭からカンボジアにおいてマンコール遺跡の調査を始め、遺跡保存官や石工の養成、王立芸術大学の考古学部・建築学部の学生研修、村落における伝統文化の伝統文化の伝承、マンコール・ワットの修復工事、そして遺跡の保存の理念・活動方針・方法論の構築などを行なって参りました。幸いなことに、これらの活動はカンボジア人の研究者を勇気付け、遺跡保存の考え方はカンボジア政府から評価されております。例えば、私共が遺跡保存の基本理念にしている「カンボジア人による、カンボジア人のための、カンボジアの遺跡保存修復」ということ、調査団の活動方針である「カンボジアの自立を助ける、調査と修復は連動させる、経済と社会文化の発展を調和させる」こと、遺跡保存の方法論である「アンコール地域を森林、住民、遺跡の共存地域にする」ということなどです。

1989年、「上智大学アンコール遺跡国際調査団」は本格的な活動を開始しましたが、1991年には調査団の活動ならびにカンボジアの文化復興支援活動を統括する「アンコール調査室」が設立され、1996年にはカンボジアのシェムリアップ市に「アンコール研修所」が建設され、様々な活動を行なって参りました。しかし、2002年10月1日、これらの活動を21世紀に相応しい国際協力活動としてさらに拡充展開させるため、

上記二部署は統合改称されて「上智大学アジア人材養成研究センター」となり、本部をカンボジアのセンターに置いて再出発致しました。

1992年12月、世界遺産に登録されたアンコール地域は東京都23に匹敵するほどの広大な地域であり、鬱蒼とした熱帯の森林が繁茂した地域であります。そこには、アンコール・ワットを始め100余りのアコール王朝時代に建立された石造遺跡が林立しており、80の村落で8万の住民が伝統的な生活を営んでおります。カンボジア政府のアプサラ機構はこの地域一帯を魅力ある「生きた遺跡地域」とすべく総合的に保護・運営・開発を行なっておりますが、私共は上記の遺跡の調査研究、遺跡保存官や石工の養成、村落の伝統文化伝承のほかに環境保全、村落の社会文化発展なども全てアプサラ機構と密なる連携を保ちながら、かつ地域住民の全面的な協力を得ながら行なっております。



以上の理念と方針に基づいて日本およびカンボジアで行なっている私共の活動にご支援を頂ければ誠に心強いことであり、衷心より感謝申し上げる次第です。

